

H28 年度 山口県看護協会保健師職能集会報告

H28 年 6 月 25 日（土）保健師職能集会を開催しました。山口県保健師職能委員長より H27 年度事業報告・H28 年度事業計画等報告の後、特別講演『地域包括ケアシステムにおける保健師の役割』というテーマで、高知県中央東福祉保健所 田上 豊資 所長に講話をいただきました。



先生のお話は、すごく納得できたり、考えさせられる内容が満載でした。多忙業務の中、事業に振り回されている保健師活動において必要なことは何かを考えさせられるお話しで、あっという間の時間でした。もっともっと話をお聞きしたかった・・・

きっと参加された 94 名の方々も同じ思いだったのではないのでしょうか。

講演会の中で特に印象的だったことは、保健師の仕事の原点は、公衆衛生（Public Health）だと言われた事です。保健師は、英語で Public Health Nurse と書きます。しかし、みなさんの仕事、Personal Health Nurse になっていませんか？

分散配置・縦割りの業務分担で個別支援・個別業務にだけ目を向けてしまいがちですが、それは保健師としての本来の仕事ではないはず！公衆=みんなの健康・みんなの力を引き出していくことが保健師の役割であり、原点です！！その視点を見失っていただけに、胸に突き刺さるお言葉でした。

参加いただいた方からも多くの感想をいただいています。
すべてを紹介できませんが、各年代で抜粋してお知らせします。

◎20 歳代

- 普段の業務を振り返ると、パーソナルでしか問題をとらえきれず、パブリックにつなげられていなかった。自主の力を引き出せる様な関わりを持っていけたらと思う。
- 保健師として仕事ができているか、日々の業務を振り返るきっかけとなる貴重な講演だった。

◎30 歳代

- 「地域包括ケアシステム」はこういう事だったのかと改めて感じた。パーソナルヘルスと言われてみると、活動の大半がそうになっていると感じた。

◎40 歳代

- もやもやして悩んでいたのが、すっと心に落ちた。同僚も一緒に参加しているので、これからの活動に生かしたい。

◎50 歳代

- 現実とのギャップの中でも、本質の保健師活動をしっかりと見つめ直していかなければと強く思った

